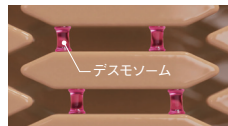


デスモソーム糖化

新発見

角層で、「デスモソーム」は糖化していた

ポーラは角層細胞同士をつなぐタンパク質複合体「デスモソーム」が、角層で糖化していることに着目しました。



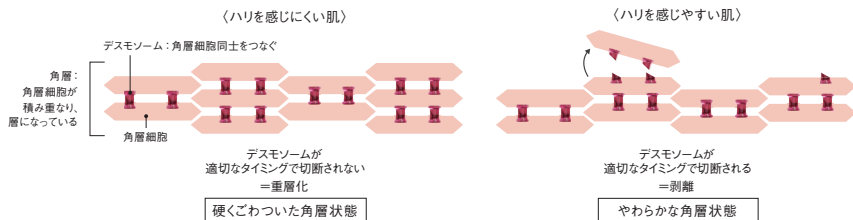
デスモソームとは

角層細胞同士をつなぐ
タンパク質複合体

新発見

デスモソーム糖化を防ぎ、角層AGEsを除去する成分を発見

デスモソームとは、角層細胞同士をつなぎとめる役割を担う。
適切なタイミングで切断されないと、硬くごわつき、ハリを感じにくい肌に。

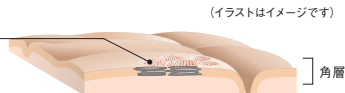


ハリ肌を見つめて40年。糖化の肌への影響を研究し続けて26年。

ポーラは1999年に「肌の糖化」についての研究をスタート。2009年に業界で初めて肌の糖化物質を分解・除去することを可能に。抗糖化のパイオニアとして、糖化研究を突き詰めてきました。糖化とは、糖とタンパク質が結びつき、最終糖化産物「AGEs」が生成されること。AGEsが増えると褐色化して硬くなり、一度生成されると、自然には分解・除去できずに蓄積してしまいます。

糖化が原因で起こりうる角層の現象

ごわつき：角層のケラチンタンパク質と糖が結びついてAGEsが生成されると、角層の硬さやごわつきの一因になります。



〈AGEsが増えると、褐色化し硬くなる〉

